

平成29年度 第3回吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：平成30年2月20日（火）

午後2時～4時半

開催場所：中央図書館3階 第2集会室

出席委員）稲垣委員、上野委員、野々上委員、佐中委員、柴田委員、西野委員、林口委員
広瀬委員

事務局）

西尾中央図書館長、宮東参事、長参事、林野主幹、栗生主査、

森司朗千里図書館長、森ほだかさんくす図書館長、

梶原江坂図書館長、廣本千里山・佐井寺図書館長、

桑名千里丘図書館長、牧瀬山田駅前図書館長

傍聴者）1名

平成29年度 第3回吹田市立図書館協議会次第

1 第8期委員紹介及び役員選出

2 「平成28年度（2016年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）」について

3 報告事項

（1）平成30年度予算案について

（2）吹田市立図書館への要望書について

（3）（仮称）健都ライブラリーの進捗状況について

4 その他

（1）次回日程について

（2）その他

事務局：開会の挨拶

傍聴者確認 1名

資料確認

新委員紹介、出席委員自己紹介

出席確認

事務局の紹介

役員選出

1 第8期役員選出

長参事：次第の1の役員選出に入らせていただきます。本日お配りしました資料の図書

館協議会規則をごらんください。吹田市立図書館協議会規則第2条で協議会の会長、副会長は委員の互選により定められています。選出方法等につきまして何か御意見はございますか。無いようでしたら、事務局案でございますが、会長には、関西大学の文学部教授の広瀬先生を、また、副会長は府立中央図書館の柴田委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。異議はございませんか。異議なし

それでは、会長に広瀬委員、副会長に柴田委員に御就任いただきます。規則では会長、副会長の任期は1年ただし再任を妨げないとなっておりますので、2年の会長、副会長の就任をお願いしたいと思います。異議はございませんか。異議なし

ありがとうございます。(席の移動)

これで、会長の選出が終わりました。これからの進行は会長にお願いします。事務局より2点最初にお諮りしたいことがございます。1点目は傍聴者の入室についてですが、毎回会議の冒頭で会長にお諮りするのが良いのかということと、2点目は当会議の議事録につきましてですが、自由にご発言いただきたいの思いからお名前をアルファベットに変えての公表としたこともありました。前回委員様からのご指摘を受け、他部署の審議会の公表状況を調査したところ、実名での公表としているところも少なからずございましたため、7期では実名での要録作成としました。8期の最初に当たり今期の取扱いにつきまして、最初に委員さんの中で決めていただきたいと存じます。それでは会長よろしくお願いたします。

広瀬会長：改めまして、こんにちは。会長を拝命いたしました、関西大学文学部の広瀬と申します。図書館の協議会に関わることは初めてで、吹田市の社会教育委員会議のほうでこの図書館に一度来たことがあります。図書館のスペシャリストがお揃いのようなので、いろいろと教えていただく面もあろうかと思えます。2年と長い期間になるかと思いますが、少しでもこの吹田の図書館が実りあるものになるように良いアイデアが出て来たらと思っています。よろしくお願いたします。本日の会議は午後4時までの予定となっております。議題が1件と報告事項となっておりますので、議題については午後3時30分までを目安に議論いただけたらと存じます。傍聴の件と記録の公表のしかたについて、御意見をお願いいたします。

広瀬会長：それでは、傍聴については確認してからの入室ということでよろしいでしょうか。

西尾館長：現在傍聴希望一名いらっしゃいますので、入室していただいてよろしいでしょうか。

広瀬会長：皆様いかがでしょうか。

異議なし

長参事：1名入室していただきました。

広瀬会長：今期の会議録については御意見ありますか。

西野委員：7期とか8期とかというのを説明してください。初めてなので教えていただけませんか。

西尾館長：図書館協議会は平成15年から始まっておりまして、そこから2年ごとに委員を公募して2年の任期で続けてきております。今が8期目となります。会議は当初は年4回でしたが現在は年3回となっています。2年の任期の中で6回の会議となります。

長参事：12月1日付で委嘱をしておりますので、8期目となっています。

西野委員：この名簿は8期のメンバーということですね。

西尾館長：議事録につきましては事前に皆様に御確認いただき確定いたします。

野々上委員：私は何度か傍聴させていただきましたが、その時は意見を聞かれることはありませんでしたが、意見を聞かれることがあるのですか。

西尾館長：傍聴の方の意見を聞くことはしていません。皆様でお諮りいただければ良いと思います。

野々上委員：豊中市では傍聴の方の意見も聞いておられるので、吹田市はどうかと思いました。

広瀬会長：公共性のある委員の仕事ということですので、実名できちんと御発言いただくという主旨なのだと思います。場合によっては相談に応じるということなので、実名での要録作成公表といたします。よろしいでしょうか。

異議なし

2 「平成28年(2016年)吹田市立図書館点検・評価報告書」(案)について

広瀬会長：次第の2「平成28年(2016年)吹田市立図書館点検・評価報告書」(案)についてまずは事務局より説明をお願いします。

宮東参事：先だってお送りいたしました「平成28年(2016年)吹田市立図書館点検・評価報告書」(案)をご覧ください。毎年実施しております点検・評価ですが、初めての方もいらっしゃると思いますので説明いたします。平成28年度に実施しました事業を図書館の基本構想の項目に合わせて整理し、数値目標についてはアクションプランに合わせて実現可能な数値で設定しております。平成28年度に実施した事業の成果を入れております。

図書館の評価につきましてはA B C Dの4段階の評価と成果と課題ということで7期の委員さんから前回いただきました御意見なども入れて、あらかじめお送りしました。

2 ページ目から「基本目標 1 いつでもどこでもだれにでも役立つサービスを」ということで、取組み 1 として「施設及びサービス網の整備」をあげ、中央図書館の整備と、不便地域であった岸部の進捗と、数値としては広域利用の結果をあげました。目標を上回る成果があったかという視点で図書館としては A を付けました。協議会の評価としてはそれらの成果を評価したご意見をいただき A となりました。

広瀬会長：基本目標 1 取組み 1 について御意見がありましたらお願いします。

西野委員：3 ページ目の大阪市の広域利用の数字が増えた理由について教えてください。
何かアピールがあったのでしょうか。

西尾館長：おそらく大阪市民はさんくす図書館しか利用できないのですが、システム変更に伴ってそれまで DVD が借りられなかったものが、28 年度から借りられるようになったことが大きいかと推測します。

森ほだか館長：特に何かをしたということはありません。大阪市の新規登録の方が毎月 10 人くらい来られています。全体的に利用は増えていると思います。

西野委員：貸出数はそんなに増えていないので疑問に思いました。今回始まった広域貸出は大阪市は関係ないのですね。

宮東参事：北摂 7 市 3 町ですので、その中でどこの図書館も使えるということです。大阪府についてはさんくす図書館だけの利用となっています。

西野委員：数が増えれば良いのかというのは分かりませんが、利便性ということでは相互利用は図書館としてはいいことだと思います。

稲垣委員：2 ページの真ん中あたりですが、図書館利用不便地域の解消として自動車文庫の活用があります。今日来館時に「ゆめぶんこ」の黄色いバスが出発するところでした。他の府県でも自動車文庫を止めているところもありますが、不便地域の解消のとても大切な歴史のある活動なので、健都ができたならまた変わるのでしょうか。学校に行くのもあの便ですか。活用を今後も続けていただきたいです。

広瀬会長：課題はありますが、今期の評価 A でよろしいでしょうか。

異議なし

宮東参事：4 ページ目からの利用促進については、数値として貸出冊数とホームページへのアクセス数を入れております。一昨年度はシステムの入替のための休館やシステムの停止などがありいずれも数を減らしていたものが、回復をいたしました。来館困難な方への郵送貸出準備もいたしました。自己評価は B です。「来館困難な方への郵送貸出への評価と SNS の更なる活用や評価検討をしてほしい。」という意見、「新しい技術の導入についての利用者への丁寧な説明をして欲しい。」などの御意見をいただいて B となっております。

西野委員：一番最初のところで年間貸出冊数の目標が出ていますが、これはどこかで計画を立てているのですね。

西尾館長：図書館基本構想というものがあまして、この 35 ページにアクションプランというものをつけています。その中の利用促進の項目中に目標達成 420 万となっています。人口が 35 万人の時に市民一人当たり一年に 12 冊借りていただくことを目標にしようということで設定したものです。吹田市の第三次総合計画の中では 10 冊であったものがほぼ達成できそうなので、次の目標として利用の増加を次の総合計画の中でも掲げております。

西野委員：隣の豊中市でもこのような数字なのでしょうか。目標への達成度が 93.4%でまずまず達成できていると思うのですが、それがどうなのかと思ったのです。

西尾館長：もともとは総合計画の中で市民一人当たり 10 冊だったものが、図書館の整備に従って団体貸出しも併せて達成できたので次の目標を設定しました。市民が一月に一冊借りてもらうことを目標に、今は 12 冊を個人貸出の目標にしたものです。特に根拠として示すものはありません。

宮東参事：今吹田市では 9.71 冊となっています。多いところでは茨木市が 13.88 冊ですので 12 冊が驚くべき数字ではなく目指すべき数字であるとは捉えています。豊中市は 8.85 冊となっています。

西野委員：よそとの比較を聞くと感覚的に捉えやすいです。ありがとうございます。

西尾館長：次回には北摂 7 市との比較表などもお示しできるようにいたします。

広瀬会長：お住まいの地域によって、図書館、書店を含めいろんな図書へのアクセスがあるので一面を表すものと感じています。ポイントが高ければ活発という単純なものではないと思います。他市町の状況など整理したものを出していただければということですのでよろしくお願いします。

西野委員：あまり数値だけを追うことは良くないと思っています。今までの経過の中でこの数値が出ていて私は初めてなので聞いただけです。この中に比較表などを入れるとよそとの競争のようになるので、そこまでは不要です。それより先程言われたようにこういう場で言ってもらって、図書館のほうで持っていてもらえば結構です。

広瀬会長：あくまで参考資料でということですね。

野々上委員：5 ページの来館困難な方への郵送サービスについて書かれているのですが、吹田市の図書館は障がい者サービスはとても進んでいると思います。このサービスが始まってとても良かったと思います。29 年度から始まってその利用状況を少し教えていただけますか。

廣本館長：郵便局の心身障害者用ゆうメールを使っていて、それは郵送料が半額になるものです。現在 13 名の登録がありまして常時 5 名ほどの貸出をしています。

野々上委員：今後も進めていただきたいです。

長参事：郵送料は全額図書館で負担しているものです。

広瀬会長：新しい取組みもされていると思います。次の課題として、いつでもだれでもと

ということで多文化サービスについて各図書館で意識してどの程度されているのか。お知らせ1枚でも良いので他言語の図書館利用の案内をアピールできるよう、もう少し目立つ場所に配置していただきたいと思います。

西野委員：6ページのところで読書離れ活字離れが言われる中で新規登録者を増やすことが必須と書かれていますが、もともと図書館活動の統計では登録者数と利用者数の2種類があります。登録しても利用していない人が大勢いるように書かれていますと思うのです。現在の登録者のもっと活発な利用を図るのが必要ではないかと感じます。

宮東参事：いただいた御意見は評価の中に加えます。

広瀬会長：新規の登録者を増やすというのは潜在的な利用者を増やすという面もあり、既に登録されている方の活発な利用を促進するのが望ましいとひとこと追加をお願いします。協議会としてはBの評価が出ていますが、いかがですか。これからいくつか取り組んで行かなくてはならないという意味でのB評価であると思います。

宮東参事：6ページから資料と情報の提供ということで、昨年度取り組みました行事の参加人数やレファレンス、読書調べもの相談の数値を入れております。そのうち行事についてはアクションプランの数値を見直した個所となっております。成人向け児童向け合わせて31年度までに26,000人の参加者をということで、教育委員会の重点目標に掲げたことから、その数字からそれぞれ割り戻して参加人数目標といたしました。自己評価についてはBです。協議会からは多彩な行事の取組に評価をいただいています。レファレンスについてのホームページ活用や学校支援の物流の確保に努力してほしいという意見をいただき、Bとなっております。

広瀬会長：「調べもの支援のパスファインダーを増やす。」となっておりますが、どういうものを希望する意見があがってきていますか。

森ほだか館長：今年度作成したものは高齢福祉の部署と協同で在宅医療についてのパスファインダーを作成しました。

宮東参事：あと現在児童向けのパスファインダーにも取り組んでいます。

上野委員：学校の立場でお話させていただきます。「おめでとう1年生」や「もうよんだかな」を配付していただいているのが、学校の中では図書館とつながる取組みと感じていますので、是非今後も続けていただきたい。もう一つ児童向けで「ブックスタートのひろば」「おひぎで絵本」とありますね。絵本が1冊もらえるということでいい取組みだと思います。5冊の中から選べるということで、小さいうちから永く図書館や本に親しむことができるのがうれしいことです。

宮東参事：小さい時から御家庭で絵本に親しむ環境を作っていただきたいということでブックスタートをすすめています。

野々上委員：現在ブックスタートの事業にボランティアグループ「りんごの木」のメンバ

一としてかかわっています。絵本を読んだり、わらべうたを歌って0才から1才までの赤ちゃんとお母さんたちと一緒に手遊びをしながら楽しんでいます。地域にマンションが増えているのでたくさんの方が参加しています。ブックスタートのひろばを卒業した子供が、次におひぎで絵本に参加してくれるようになっていきます。また違った絵本と、手あそびやわらべうたも動きのあるものになっていきます。

広瀬会長：せっかくの取組みを市民が知らなくて利用できないこともあると思います。広報の重要性もあると感じます。ヤングアダルト対象の職場体験では、まず図書館に来てもらって図書館はどんなところに触れてもらって、それが図書館利用に繋がればと書かれています。図書そのものの利用に関しては、中学校に入ったくらいまでは図書に接する機会や習慣が出来ていたものが、中学二年生くらいから図書そのものからは遠ざかって行ってしまうこともあって、世の中にいろいろなメディアがありますので難しいとは思いますが、高校生を含めてどのような利用促進を図っていけるのかは、学校とも連携をしながら考えていくべき課題だと普段から思っています。

林口委員：9ページのビブリオバトルについてです。勤務している中学校でも開催することができました。最初は大人が見本を見せた後に国語科の先生が授業で取り入れてくださって生徒たちも体験することができました。ビブリオバトルは本のストーリーを頭に入れてメモとか原稿を作らずに5分間その場で紹介するゲームですが、読解力や話の内容をうまく伝える力とか、いろいろなスキルがつくゲームなので、大人やお年寄りに交じってすることで学校ではできないコミュニケーションのできるイベントだと思いますので、回数を増やしていただければ口コミや噂が広がり来館者が増えるのではないのでしょうか。

宮東参事：協議会の課題として入れさせていただきます。

広瀬会長：学校現場でも新しい学習指導要領で授業時数の確保が難しくなって多忙化が進んでいるという話もあります。授業で進めているようなリテラシーを高める活動との繋がりも出てくるのかと思うので、多世代が本を介して交流できるようなくみが出来ればということですね。Aに近いBかと思います。いかがでしょうか。Bでよろしいですか。

異議なし

宮東参事：基本目標2「生涯学習を支援して仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスをめざします」ということで、「施設や地域との連携」が取組み1になっています。おかげさまで出前講座や講師派遣の依頼が増えてきています。専門職の仕事ととらえ、お声掛けがあれば断らない、ということで取り組んでまいりました。自己評価はA、それを評価していただいてA評価をいただいています。

稲垣委員：11ページの下の他部局との連携ですが、大阪学院大学の図書館の見学の案内が

貼ってありました。そのような連携や出前講座もいいと思いますが、具体例を挙げていただけますか。

宮東参事：お子さんの読書振興のための「絵本の読み聞かせの仕方や絵本の選び方」「図書館の使いこなし講座」もごございます。目的にあったものをまなびの支援課を通して申し込んでいただいたら、近くの図書館から出かけて行っています。保育園のPTAなどから依頼をいただくことが多いです。

野々上委員：それに加えて、学校図書館では読書活動支援者が各小学校に一人ずつ配置されているのですが、その方たちの自主学習の時にもこの出前講座を活用していません。年度初めには調べ学習に役立つ本の紹介などもしてもらっています。

広瀬会長：学芸員も司書も専門職として一般の方とのかかわりに距離ができてはせっかくの専門性が生かされないのでは、できるだけアクティブに中だけでなく外に出て行く動きが出ているのかと思います。忙しい中で力を高める貢献活動をされているということで、それが吹田市の図書館のアピールに繋がっているということでAという評価になっていますが、その取組みを進めていただくということでいかがでしょうか。

異議なし

宮東参事：13 ページからの取組み2 「自己実現の援助」こちらは主にボランティア関連の項目となっています。現在も多くの皆様にご支援いただき図書館活動を続けております。こちらは目標値735名には届きませんが、いろいろ努力を続け、登録者数は前年度より少し増えました。自己評価はBです。息長く多くの方がお力を寄せてくれるようなボランティアのPRを考えてほしいというご意見をいただきました。協議会評価Bです。

広瀬会長：現状の把握としては、登録には繋がっていないけれど潜在的にいらっしゃることなのか、おおよそすでに活動されて繋がっていることなのかどちらでしょう。新たにボランティア団体を作るということは難しいことです。そのあたりはいかがでしょうか。

宮東参事：児童向けの読み聞かせ行事をお願いするボランティア。障がい者向けの朗読や音訳点訳のボランティア。あと図書館フレンズといって図書館が毎年募集して一般向けの行事の手伝い等をお願いしたり、地域資料の整理を手伝っていただくボランティアとだいたい3つの柱で動いています。それぞれで成熟して活動されているかと思っています。図書館フレンズについては毎年交流会もかねて募集説明会をしています。仕事をしていただくだけでなく、ボランティア同志の交流やつながりが持てるようにしていくのが良いと考えています。

広瀬会長：それぞれにグループごとに成熟し他活動をされていて、単純に数を増やすだけでなくそれを継続しながら中身を充実させていくことが重要な課題であるということですね。

宮東参事：もともとの1,000名という目標が、障がいや支援を必要とされる方の人数から割り出したものです。本当にすべての方が図書館を御利用になれば、それだけの人数が必要になってくるものです。とりあえず図書館にお力添えいただいている方が長く続けていただけるように考えております。

広瀬会長：課題に書かれている市民の意見を企画段階から取り入れるような仕組みとありますが、ボランティアや市民の方々と日々接する中で意見交換をしたり課題を発見したりということがあると思います。ここでの仕組みというのはどのようなものでしょうか。

宮東参事：ボランティア団体の持ち込みの企画を図書館で開催したこともありますが、それが今うまくいっていない状況にあるので、それらがコンスタントに進むようなシステムづくりが今後大事だと思います。こちらからお願いするばかりではなく一緒に考えていくことだと思っています。吹田子どもの本連絡会さんとは一緒に行事や講座をしているのですが、そういうことが広がればもっと図書館に力を貸そうという気持ちになっていただけるかと思っています。

広瀬会長：ボランティア参画型ですね。個別の事例のうまくいった事例から一般的な協議の形を作って行けたらという課題意識を持っているということですね。異論が無ければBということで。

異議なし

宮東参事：15ページからの高齢者・障がい者サービスの充実ということで対面朗読、音訳図書の出借とも増加しております。デジ再生機の出借や、ユニバーサルコーナーの設置などにも取り組みました。15ページの視覚障がい者サービスに、吹田市立図書館で作成しサピエに提供しておりますコンテンツのダウンロード数を入れました。自己評価はAでした。協議会としては成果を評価していただいたのAと、広い意味での障がい者へむけての情報発信の取組みに期待する意味でのBでとに分かれています。

稲垣委員：11ページの課題にある障がいのある方が図書館のホームページを使うということがあるのでしょうか。またホームページを通じての申込みなどをされることもあるのでしょうか。電話でのやり取りで充分なのでしょうか。

長参事：ホームページの読み上げソフトは入っていますので、それを利用していただくことはあると思います。ホームページを使ってメールでのやり取りはしていません。

稲垣委員：プレクストークの出借をされていますが、特別支援の学校とのやり取りなどはあるのでしょうか。現在デジ再生機が一般的になっていますが学校などへ貸出すことは無いのでしょうか。

廣本館長：デジ再生機につきましては現在デジタル化が進んでいて、他の点字図書館などでもカセットテープでの製作が無くなってきています。今テープをお使いの方にデジ再生機を体験していただくということで貸出をしています。学校にはこれ

から働きかけをして行きますが、再生機の貸出はまた別のものです。

稲垣委員：カセット世代の方のデイジーへの移行でプレクストックを貸しているのが今の状態ですね。障がいのある子供たちへの働きかけは何か今からしようかなというところですか。

西尾館長：マルチメディアデイジーというものがありまして、図書館でも何個か所蔵しており寄贈も受けています。どちらかという、それを先生方に知っていただいて紹介するのが先かなということで、全館で体験していただけるようにしています。特別支援学級に出かけていく取組みはしておりません。

宮東参事：クラスの中で一緒にマルチメディアデイジーを使いたいという声は聴いております。

西野委員：タイトルは高齢者障がい者となっていますが、実際に高齢者にはどんなことができるのでしょうか。退職して図書館に行くようになったら朝 10 時から高齢といってもそんなに高齢というわけではない方が大勢おられます。その人たちは入館したら新聞の取り扱いをしていて、それに対応するかは別ですが高齢者対応というのはどんなサービスがあるのでしょうか。これから先図書館としてはどうしていくのでしょうか。

西尾館長：何年前に「自分史講座」というのを開催いたしました。高齢者と銘打つと高齢者は来ないので、「自分史講座」を千里図書館で開催した時は非常に好評でした。図書館で本を調べながら生まれた時にどんなことがあったとかいうことを本にまとめられたことがありました。そういった、図書館を利用してそこから何か生み出すような取組みをして行きたいと思っています。

西野委員：目の前の新聞や雑誌を読むだけではなく、ほどほどの高齢の方向けに、千里図書館の闘病者用の本棚は良いと思っています。年が行くといろいろ体のことが心配になるものなので新聞や雑誌だけに集中しない、何かを考えれば高齢者向けのアイデアになるかと思います。

宮東参事：スポーツ講座もしておりまして、文化スポーツ推進室の指導職員が来てストレッチや歩く講座をしていて、高齢者向けとは謳っていませんが 80 才ですけどいいですかといって参加されています。折り紙講座も毎年好評で手先を使ってということで、高齢者もみんなも楽しめるという取組みが必要かと思っています。

西野委員：高齢者へも何か新しい取組みをしてほしい。評価の中でアピールと書いてありますが新しいことを何か考えてほしいと思います。うまく取り込めば新聞を読みに来るだけではなくて、もう少し図書館に近づいてもらえるのでは。図書館に来てもらっているチャンスを生かして考えてもらえればと思います。

広瀬会長：猪名川町の教育委員会にもかかわっているのですが、猪名川町の図書館は利用者が全国的にも多いといわれていることを知りました。高齢の方もたくさん来館されて日中は高齢者の居場所になっているようです。図書利用の促進もあります

が住民の利用する施設として居場所の一つになっているということを改めて感じました。高齢者をターゲットにした取組みや活躍していただくことも考えてということですので、企画等を考えて充実させてもらいたいです。評価はいかがでしょうか。

林口委員：高齢者と障がい者を一緒にするのではなく分けて考えてはいかがでしょうか。高齢者の方には経験を残してほしいですし、経験が本になるのは良いことですが、本にならなくても経験を語っていただくことが良いのではと思います。

広瀬会長：項目の構成については次回ということでユニバーサルなサービスとかデザインの充実とかいう形にして、企画としては高齢者の特性を生かした活動という風に枠組みを考えても良いかもしれません。今後の課題があるということでBという評価でよろしいでしょうか。こちらは期待を込めてB評価といたします。

宮東参事：17 ページから特色あるサービスは 各館がそれぞれ取り組んだ事業についての評価となっております。ビジネス支援や多文化サービスに取り組んだ自己評価はA。協議会としてはビジネス支援や多文化サービス国際交流などが地道に進んだという意味でAかと思います。

西野委員：多文化に非常に興味を持っています。大学がある関係で留学生が多いと思います。図書館の外国人へのサービスは重要なポイントになると思います。取組みの中では子供対応のものしか出ていません。千里図書館は上階に国際交流協会があります。関係を深めてもう少し工夫すればもっとサービスができると思います。どんな人が住んでいるのかわからないのですが。

森司朗館長：同じ建物にある国際交流協会には、外国語の利用案内を作成するときに翻訳の校正をしていただいたり、資料の選定でも御意見をいただいたり資料の希望についても参考にしながら収集しています。

西野委員：やっていることがあれば成果の中にきちんと書いても良いと思います。千里は外国語の図書が多かったと思うので、その活用をこれからの課題とすれば良いと思います。

広瀬会長：サービス利用の促進ということであれば、多言語を駆使できる職員が居れば現場対応も可能なのかもしれません。更なる取組みを広げる要望が出ているということですが。

西野委員：多言語のできるスタッフをとというのは難しいことです。同じ建物に交流協会があるというのはメリットだと思います。職員が何でもするのは限度があるので、どこかとの連携とかボランティアあるいは高齢者のあったように外国人が役立つようなことを取り組めば良いと思います。外国人のボランティアはいらっしゃいますか。

西尾館長：現在はいらっしゃいません。

西野委員：多言語については図書館だけががんばるのではなくて、何か巻き込む場を考え

たらよいと思います。図書館が何でもやるのは無理なので。

広瀬会長：関係の機関などですね。

西野委員：交流協会の他に何かあるのでしょうか。関大にはありませんか。

稲垣委員：留学生は多いです。

西野委員：留学生は公共図書館とは少し違うかもしれません。

広瀬会長：図書館活動に特化した団体でなくても、外国籍への支援の団体であるとか市民団体はあるでしょうから、そういうところと繋がるのも一つのあり方かもしれません。活躍できる場があればと思います。今後の課題の一つですね。

野々上委員：19 ページの課題ですが、ビジネス支援のところにガンバ大阪のことが書かれています。これは課題になるのでしょうか。図書館に旗やポスターも貼っています。大阪市立中央図書館はセレッソ大阪と連携していて選手のお勧めの本などの紹介をしています。図書館に展示もして利用者の興味をひく取組みもしているのが効果があるということです。鳥取県の県立図書館の小林さんもおっしゃっていますが、サッカーチームとの連携は今は下火なのでしょうか。

宮東参事：以前は図書館とガンバ大阪が直接話をして「読書でガンバ」という取組みをしたこともありました。現在はスタジアムが出来たことから、市の別のところを通しての大きな連携となったということもあります。市としてはガンバを応援するという姿勢でいます。サッカー部というのは変わらずありますので、対戦相手に声をかければグッズなどの交換展示などは取り組めるかと思います。声をかけてもらったら必ずするというで続けていけるとと思います。

野々上委員：サッカーは男の子が好きだし今は女子のチームもあるので、結び付けられると良いかなと思います。

広瀬会長：提案はAということで異論が無ければ、今後の広がりを持たせたいというところはありますが、評価としてはAとします。続きまして、基本目標3取組み1「子ども読書活動支援センター機能の充実」についてです。

宮東参事：20 ページからの基本目標3「子育て支援、学校連携などの児童サービス」について、ブックスタートでは地道な努力の結果、絵本の配布率をおおむね維持しています。「ブックスタートのひろば」の参加人数も回復いたしました。数値目標については、児童文学に係る講座講演会の参加者数と読書活動振興の講座派遣事業の参加者数が昨年より入れ替わっております。これは児童文学に係る講座については予算が決まっており、実施できる回数と図書館の集会室の収容キャパを計算したところ妥当な数字と考えられる目標にしたものです。講師派遣についてはお呼びがかかれば予算や施設のキャパに関係なく実施できるということで、機会があれば図書館から出かけて行って図書館利用を呼びかけ、読書振興につなげることを目指します。自己評価はもう一息学校へのPRが足りなかったということでB。先程PRという意見をいただきましたが、このような出前講座は図書館を、

実感していただく場ととらえ、協議会としても更なる学校支援の充実をしてほしいということでBをいただいたのかと感じます。

稲垣委員：子ども読書活動推進計画の改訂はどうなっていますか。

宮東参事：要望書でもいただいた意見ですが、いまのところ予定はございません。

稲垣委員：協議会として何とかしてと言ったほうが良ければ、言いたいです。学校ともかわることですので。

野々上委員：これは2次ですか。

西尾館長：この改訂は2次に合わせて行われたものです。今現在3次になっていますね。

これを取りまとめているのが図書館ではないというのは課題です。

野々上委員：市民も参加して読書推進計画が進められるといいなと思います。

上野委員：読書活動支援者がようやく今年から一校に一名配置になりました。読書活動支援者を介しての学校図書室への取組みはこれからだと、学校としてはとても喜んでいきます。更なる取組みをしていただけたらと思っています。

野々上委員：今は希望が無ければ行っていないですが、ごりまる便を増やしてほしいという声を先生方からも上げてほしいと思います。物流というのはとても大事です。これがあることで学校への図書の提供が違ってくるので、もっと活用してもらえる形を作って欲しいと強く思っています。

西尾館長：ごりまる便は月2回水曜日に運行しています。1回に5校が限度です。年度替わりと夏休み冬休みを除いて全般的に利用されていますが、市民利用の車を転用しているので限界があります。違う手だてを考えていく必要があるというのは痛感しています。

野々上委員：図書館が物流についてバックアップをしているのは、学校図書室や支援者にとって強力だと思うので物流、ごりまる便の活用ができる体制をととのえていただきたいと思っています。

西野委員：貸出統計を見るとBMは数値がかなり少ないです。自動車文庫の重要性は分かりますが将来に向けて子供に対していろいろするのは大事なので、学校への巡回を月2回と言わずもっと増やすようにできないか。一方を減らしてということも考える必要があると思います。いいことはしたいけどお金と物との関係があるので、明らかにBMは少ないので。その辺は見直す観点になると思います。

西尾館長：自動車文庫はもともと図書館の無いところに月1回時間を決めて巡回しています。図書館の整備につれて利用が固定の館に移るということで少し下降気味です。

西野委員：吹田市として図書館を配置する計画があったと思うのですが、利用の減ってきた自動車文庫を見直す必要があると思います。どこかには痛みが伴うのは仕方ないと思います。

西尾館長：岸部に図書館が出来ることで市域の方はほとんどカバーできるようになり、あわせて車両の老朽化も進んできます。自動車文庫についてはその存続も含めて検

討していかなければならない時期になっています。あわせて課題とさせていただきます。

広瀬会長：市域全体への図書館整備状況と不便地域へ本を届けることが主であったところから学校連携への活用と、役割機能が変化してきていることから、総合的にご検討いただきたい。評価としてはBでよろしいでしょうか。

宮東参事：いただいた意見なども加えて評価を確定しますが、総合評価の決定をお願いします。

広瀬会長：非常に多岐にわたるものに評価を付けるのは苦しいです。いままでつけてきた評価と別なものが付くというのは考えにくいです。課題はあるが着実に進んでいるのでAというのもありますし、今後の課題を意識してBというのもあります。

西野委員：目標を上回る成果というのがAということです。Aというのはかなりすごいということだと思います。こういう評価で月日が経つにつれて評価が上がって行って、ほんとにAなのかということがあります。別にBでも悪いことは無いと思います。一定の成果を上げたということですので、Bになるのかなと思います。

佐中委員：前年度はどうでしたか。

宮東参事：Bであったと思います。

広瀬会長：基準に照らして総合的に考えるということだと思います。Bという御意見が強いので期待を込めたBにさせていただきます。

3 報告事項

(1) 平成28年度(2016年度)図書館費予算(案)について

宮東参事：平成30年度当初予算案のうちの図書館関係費の概要についてご説明申し上げます。

1の一般会計予算でございますが、縦軸の上から順に一般会計予算、教育費、社会教育費、図書館費の当初予算を、横軸は左から平成29年度と平成30年度の金額及びその増減を示しております。単位は千円でございます。

2が図書館関係予算ですが、縦軸に上から順番に人的経費として、職員、非常勤職員、臨時雇用員にかかる経費を足したものの、次に図書館の施設管理に係る経費を、そして施設運営経費として資料の購入やデータベース、インターネット利用や様々な図書館サービスに係る経費を示しております。横軸は、上と同様に平成29年度と平成30年度の金額及び増減を示しております。単位は千円でございます。

1の表の最後の行をごらんください。

平成30年度は、図書館関係費の総額は11億4,823万9千円でございます。前年度に比べて1,223万9千円の減額となっております。下の2表にありますように施設管理経費が減りましたが、運営経費が増えておりますために、増減の主な原

因は人件費の減によるものです。

2の図書館関係予算の表ですが、1行目の人的経費は4億9,768万円でございます。前年度より約1,133万3千円の減となっています。その理由は、正規職員、再任用職員の退職による減と江坂図書館の業務委託による臨時雇用員の賃金の減によるものでございます。なお、正規職員につきましては3名の補充の予定です。

2行目の施設管理経費2億1,600万1千円は、光熱水費や修繕など施設の維持管理のための経費でございます。修繕料は若干増えましたが29年度に実施しましたPCB廃棄物の処分費用と耐震診断が終了したために減額となりました。

3行目の施設運営経費は4億3,755万1千円です。こちらに含まれております、図書などの購入費と窓口業務委託料につきましては、3の表に詳細を示しております。30年度は江坂図書館の窓口委託業務が通年となり、配本車の費用も上がったため委託料が、また、ICタグの購入年度に当たりますので、消耗品費も増えているため予算の増となっております。大きな変化としては以上でございます。

裏面をごらんください。こちらは、市全体の予算における教育費の割合を円グラフで示しております。教育費は市の予算の約9%となります。図書館費は教育費の約10.1%、市全体の予算から見ると0.9%となります。

西野委員：吹田の図書館は充実していて良いと思っています。ここに出ている費用は近隣都市と比べてどうなのでしょう。近隣の他市に比べて多いのでしょうか少ないのでしょうか。

西尾館長：豊中市に比べると多いと思います。

宮東参事：市民一人当たりの図書費は、吹田市170円、豊中市173円、箕面市325円、茨木市は269円です。人口が違いますので、一概に多い少ないは比較できません。

西尾館長：今だいたい縮小の傾向にありますので0.9%というのは悪くない数字です。

西野委員：今図書館は資料費が削られて大変な状況だと聞いています。吹田市は頑張っているのかなと思っていました。

稲垣委員：資料費はいくらでしょうか。

西尾館長：資料費全体で約8,100万円。図書、視聴覚資料購入費はこの表にあります6,875万円です。

広瀬会長：為替の影響を受ける海外の企業の出版物を購入するなどはありませんか。資料費としてはこの額を維持するということですね。

西野委員：この額は過去に戻って考えたら減っているのでしょうか。

西尾館長：ICタグを導入した時に図書費から購入費用を賄いました。若干その時に減ったものを今戻している状況です。図書館活動に過去5年の図書費の決算額が入っていますのでご覧ください。

西野委員：26年度に減っているのがICタグですか。

西尾館長：はいそうです。図書も入札で購入しています。歩引きがありますので、市販の定価より多く購入できています。

西野委員：この額が正しいのかわかりませんが、図書は図書館の基本ですので新しい良い本が買えるように維持していただきたいです。

(2) 吹田市立図書館への要望書の教育委員会協議会報告について

宮東参事：7期の皆様にご尽力いただきました要望書について、去る1月18日に委員の皆様から頂きました要望書について、教育委員会の協議会の場を借りて教育委員の皆様の内容について説明いたしました。要望書については、図書館ホームページと各図書館で閲覧していただくようになっております。今期についても新たに取り組んでいただく事項がありましたら、事務局としても応援させていただきます。

広瀬会長：冒頭申し上げましたが、現在諮問事項は無いということでしたので、前期と同様新たにに取り組むことがありましたら、次回この話をして行きたいと思っております。

(3) (仮称) 健都ライブラリーの施設整備の進捗について

広瀬会長：(仮称) 健都ライブラリーの進捗状況について説明をお願いします。

林野主幹：JR岸辺駅近くで北大阪健康医療都市の整備を進めております。その中で平成32年度秋の開館を目指している(仮称) 健都ライブラリーの整備を進めるにあたり、を平成30年1月24日に岸一地区公民館にて、また翌日の25日には千コミュニティセンターにて地域住民の方々への説明会を開催いたしました。モノクロ印刷の4枚の資料が、その説明会で配布したものです。資料の右下に記載しておりますように、この図面の案は基本設計時点のものであります。現在、この図面を元に実施設計を進めているため、イメージとして見ていただければと思います。先月、地域への説明会を開催いたしました。やはり開催の場所や日時等の条件により、参加していただけたのはごく一部の方々で24日が11人、1月25日が6人でした。

そこで、先週の2月15日から来月の3月20日まで、市内各図書館にて図書館利用の市民の方々のご意見を広く集めることにいたしました。

カラーA3の資料は、市内各図書館で現在、掲示している意見募集のポスターです。ポスター内容は図書館のホームページでもご覧になれるようにしております。また一緒にお配りしましたA4の紙が意見提出用の用紙となっております。こちらの用紙も各図書館で配布するとともに、図書館ホームページからもダウンロードしていただけるようにしております。

市民の皆様からいただいたご意見は、新図書館でどのような取り組みをしていくか、検討する参考資料とさせていただきたいと考えております。

西野委員：せっかくの住民説明会の参加が少なかったが、PRはどうしたか。住民説明会でどんな質問・意見が出たか。参考のためお聞きしたい。

林野主幹：説明会当日にもPR不足の指摘はありました。PRは北大阪健康医療都市推進室という健都のまちづくりをしているところから地元の自治会等へ案内を行ったものです。意見としては、貸室は行うのか、公園との連携や健康づくりの事業はどうしていくのか、開館時間はどうなるのか、等々の質問が出ました。現在の開館時間は維持しますが、健康づくりの取組みについてやカフェの営業時間については、時間を伸ばすことも視野に入れて今後の検討課題と回答しました。

西野委員：健康医療スポーツコーナーを作るとなっていますから、健都の開発から見ても図書館がパートナーだと打ち出せば、図書館で何かほしいものはありますかと聞けば人は集まると思います。せっかく作る図書館を使ってもらえるようにしなければと思います。この場合近隣にできる市民病院や国循等の施設とうまく連携を進めてほしい。そこに来ている患者さんなども対象にすればもっと情報は集まるのではないかと。

林野主幹：移転してくる市民病院や国立循環器病センター等と連携した講座や事業、あるいはオープンに向けて健康医療スポーツコーナーに揃える資料の選定に生かされればと考えています。

稲垣委員：参考意見です。岩手県の一関の図書館に行きました。この絵と同じ建物の横に機関車D51があるが、内部を見ることができない。新幹線の内部を見られるのは嬉しいし、良いことだと思う。一関市は人口12万で箕面市と同じくらいです。図書館が8館あり、岩手県でも評判が良いのでついでがあれば御見学ください。資料も良く揃っていました。

広瀬会長：新幹線を見に足を運んで下さる方もいると思いますが、健都全体の動線の中でうまく位置づけることが大事だと思う。人が訪れている図書館を見ると隣にあるものの相乗効果で人が集まることもあると思います。健都全体で病院と公園と施設と駅のショッピング施設も含んで、人の動きが活発になるような作りができれば良いと思います。

4 その他

(次回日程調整、事務連絡)

西野委員：評価の時期についてです。統計が出てから評価をするので今の時期になるのかも知れないが、評価を予算に生かしてほしいのももう少し早い時期にできないかと違和感があります。

広瀬会長：次年度の予算に生かせるような形で協議会の意見を届けたいとなると、早い段階で話をしておかなければなりません。これまでに図書館協議会の議論を各部署で予算に生かすということで協議会の開催時期を決めたことはありますか。

西尾館長：特に無かったです。

宮東参事：数字が確定する前から始めていくと、予算に間に合う時期に御意見はいただけるかと思います。努力をします。

西野委員：来年度の計画を出すのが次回の6月になるのは、時期がやはりずれていると感じます。開催時期を変えるなど考えてもらえたらと思います。

広瀬会長：事務局と相談して時期をずらすことが可能なのか、後追いであるという御意見をいただいたので、委員の皆さんの御意見をお伺いしながらスケジュールについては検討させていただきます。検討の結果については各方法でお伝えさせていただきますので、しばらくお待ちください。

中央図書館の耐震診断結果報告

西尾館長：平成 29 年度に図書館の耐震診断を実施しました。昨年の6月からこの1月末まで委託しておりました。その結果が出てまいりましたので、お知らせいたします。残念ながら、大地震発生の場合には倒壊または崩壊の危険性が高いということになりました。この結果が出ましたので、これを踏まえて現在関係部局と協議を進めているところです。早急に方向性を決めて報告させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

これをもちまして、本日の協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

-

本要録ならびに配付資料は、吹田市立の各図書館及び情報公開課で閲覧可能です。

要録作成日：平成30年（2018年）3月23日